令和6年度 第4回旭市部活動地域移行推進協議会 議事報告

1 期日 令和7年2月20日(木) 開会 午後2時30分 閉会 午後4時30分

2 場所 旭市役所本庁舎3階 政策決定室

3 出席者 加瀬 政美 (旭市スポーツ協会副会長)
大橋 誠治 (旭市スポーツ推進委員協議会)
柏木 雄裕 (NPO 法人スポーツアカデミー)
奥住 浩基 (旭市立第一中学校長)
齊藤 実 (旭市立第二中学校長)
大目 智志 (旭市立海上中学校長)
岩波 浩之 (旭市立飯岡中学校長)
柴山 浩恒 (旭市立干潟中学校長)
岩瀬 忠久 (旭市立第一中学校教諭・吹奏楽部顧問代表)
向後 依明 (教育長)
向後 稔 (教育総務課長)
白倉 浩 (教育総務課学校教育指導室長)
江波戸政和 (生涯学習課長)
金杉 高春 (スポーツ振興課長)
金谷 健二 (教育総務課副課長)
遠藤 敏晴 (スポーツ振興課副課長)

4 開会

・傍聴者 なし

5 会長あいさつ

・加瀬会長あいさつ

6 報告事項

○モデル事業AMOCアンケート結果報告(事務局)

【地域移行をしてよかったこと】 ◎続いてほしい 生徒91%・保護者85%

- ・専門的な指導者に指導してもらえることで、子どもたちの技術が伸びる。
- ・学校を超えて、練習や試合をすることで仲間が増え、刺激を受けることができる。
- ・学校内ではグループを組めなかった子が、ペアを組みやすくなる。
- ・教職員の休日の負担が明らかに減っている。(兼職希望者も休みやすい。)
- ・「部活アプリ」は使いやすいということで好評。(指導者・保護者とも)

【地域移行を行うことで課題となること】

・活動場所が遠く、移動が大変であること。(保護者送迎の負担)

→(対応)

二中と飯岡中の隔週にしている。負担は同じ。もしこれを負担というのであれば、AMOCを2つに分けるしかない。ただし、雨や霜の関係で飯岡中を使うことが多いとのこと。(二中保護者の負担がやや多い。) ※地域クラブをどのように作っていくのかを考えていく必要がある。

・受益者負担額をどのように決めるか。

☆保護者の意見… ～1000円(36%)、～2000円(31%) と多い。

☆AMOC指導者側の意見…3000円は必要ではないか。(第3回協議会中間報告より)

7 議題(協議事項)

(1) R8の休日部活動地域移行に向けて、R7に取り組むこと

①「地域クラブ運営事務局の主な仕事と年間予定」

②R7のモデル事業に向けて

・AMOCについて

・陸上競技について

(2) R8の休日部活動地域移行完全実施に向けて

・地域クラブガイドライン策定に向けて意見交換

・アンケートへの協力依頼

○配布資料に基づき、事務局より説明

(1) R8の休日部活動地域移行に向けて、R7に取り組むこと

①「地域クラブ運営事務局の主な仕事と年間予定」について事務局より説明

・来年度、生涯学習課に「地域クラブ事務局」を置くことを説明。

・主な業務として、地域移行をすすめるための「ガイドライン」策定が大きな仕事になると考えているため、4～7月の業務量が多くなることを予想している。

(委員より)

・平日部活動と休日部活動で指導者が異なる場合、どちらがメインになるのか。ガイドラインに記載が必要ではないか。

・ガイドライン策定が一番初めの仕事になるので、その他の業務はそれが出来上がってからスタートする流れが良いのではないか。

・指導者を確保するのが難しいと思うので、県がやっている「ちばクラサポ」を使うとよいのでは。

・活動場所の管理やルールもガイドラインに載せる必要があると思う。(特に文化部の活動場所)

・文化部に特化した仕事についてもスケジュールに加えたほうが良いのではないか。

②「R7 のモデル事業に向けて」事務局より説明

〈AMOCについて〉

- ・R7. 4月～R8. 3月の1年間でモデル事業を実施する。
- ・モデル事業補助金要綱に則り、年間48回以内、時給1600円、活動時間3時間、指導者4人で行ってもらう。
- ・指導者の報酬に差をつけたい声もあったが、モデル事業では実施せずR8に向けての検討事項と伝えた。

〈陸上競技について〉

- ・4月にアンケートを実施し、どれくらいの生徒が地域クラブを希望するかを把握した後、必要クラブ数を考える方向。
- ・指導者は現段階で11人いる。進め方についてはAMOCと同じ流れで行う予定。

(委員より)

- ・報酬については、クラブ側に任せてもらえるとやりやすい。(出来るだけ多くの指導者で練習に当たれたほうが選手にとってもよいと考えている。1600円の報酬を分けて支払うなどは難しいか?)
→要綱通り4人でお願いしたい。1600円には、「責任」という意味もある。
- ・陸上については、AMOCアンケートでもわかるように移動の負担を考えて、近隣中学校で会場をまとめていけるようにしていくとよいのではないか。
- ・会計業務が負担である。(AMOCでは、奥住校長が担っていたがかなり負担。また、会計に関する報酬はもらっていなかったとのこと。)
→R8からは会計業務を「地域クラブ運営事務局」が行うが、モデル事業については補助金をそのクラブに一括して渡す形になるのでクラブで会計も行ってもらう必要がある。

(2) R8の休日部活動地域移行完全実施に向けて

①受益者負担について

- ・受益者負担はありの流れで市としては考えている。額は2000円～3000円(別途:年間2000円の登録費)を想定している。地域クラブ数が増えるかによっても負担額が変わってくる。市として困窮家庭に補助ができるのか検討していきたい。

②指導者報酬について

- ・指導者報酬は1600円で考えているが、同日に支給できる人数を2人にするか4人にするか検討が必要である。指導時間についてはモデル事業通りの3時間とする。練習試合で3時間を超える場合も同じく最大4800円、大会については練習試合と同様で良いのではという意見と時間分支給すべきという考えに分かれている。

③指導者の「質」向上に向けて

- ・指導者を迎え入れる際、あらかじめ指導者要件を示したうえで、募集があったら面接を実施する。指導者報酬については差を設ける必要があると考えているが、詳細については今後検討する。指導者の質向上のために年1回は講習会を実施する。募集については、県の人材バンクや市の人材バンクを利用して行う予定。

④市の運営の進め方について

- ・地域クラブは、「移動の負担」を考慮して、近隣中学校でクラブを作っていく考えである。自分たちでクラブを作りたいという団体については、ガイドラインに記載した約束を守れる場合、行政認定型クラブとして認めていきたい。学校部活動に入りたい部活がない生徒が休日に地域クラブには加入することは認めていきたい。学校部活動にやりたい種目があり所属しているが、休日は違う種目にチャレンジしたい生徒の加入については検討していく。クラブで使う備品については、学校から借用する方向で考えている。吹奏楽部については、アンケートをして地域クラブに参加したい人数を把握した後、必要クラブ数を作っていく方向。大型の楽器については、拠点の学校を決め、楽器の移動にお金がかからないように考えたい。また、各校にある楽器を確認し、使用ができるように市で補助が出来ればと検討している。

(委員より)

①について

- ・地域クラブに加入する人数によって受益者負担額は変わってくると思うのでアンケートが必要。
- ・50人のクラブと100人のクラブで同じ額を集めるのはどうなのか。
→全家庭2000円を集め、指導者報酬としてそれを分割することを説明した。
- ・50人のクラブを2人で見ると、100人のクラブを2人で見るとでは、質も変わってくる。

②について

- ・クラブ立ち上げに2人の指導者が必要とあるが、もっといてもよいのか。
→よい。
- ・指導者2人にしか報酬を支払えないのであれば、AMOCも陸上競技も活動できなくなってしまう。練習に3人の指導者は必要だと考える。
- ・受益者負担をとるのは仕方ないが、市として補助してくれる予定はないのか。

③について

- ・面接をする際に、担当するのは誰か？その種目の責任者もいたほうが良いのではないのか。
→地域クラブ事務局が面接を行う。種目責任者の同席については検討する。
- ・報酬はなくてもよいからボランティアでも参加したいという人もいると思う。その場合の面接はどうするか。

④について

- ・地域クラブを作ったとして、そのクラブが各種目の大会に出場できる権利があるのかは確認する必要がある。(成田で出られなかった事例あり)
- ・自分たちで作る地域クラブを認める際には、ガイドラインにそのよう要件を載せる必要がある。
- ・やりたい種目を選んでできることは地域移行の良さでもあるので、認めていくのが良いのではないのか。
- ・吹奏楽部については、個室が必要。そう考えると、学校の中に地域クラブ指導者(外部)が入るとなるので、警備の形も検討する必要がある。鍵の受け渡し方法なども考えていく必要がある。
→県の補助として、地域移行に関連しての工事については補助があることを説明。
- ・吹奏楽部顧問の考えとしては、二中に多くの楽器があるので、二中が拠点となって、1クラブにするか、2クラブにするかを考えている。

8 参加者より一言

9 その他

・次回会議日程

令和7年5月1日(木)午後2時30分から

・次回会議の協議事項

①旭市地域クラブ活動ガイドラインの検討

②モデル事業について、その他

10 閉会